



翼



第4号 令和7年7月14日 発行

「自信をつける夏に」

校長 井上 雅子

多くの部活動では、3年生は6月のブロック大会が最後の引退試合となりました。また都大会を控える部活動、外のチームスポーツもまだまだ試合があるところもあります。吹奏楽部や家庭科部、科学部、読書部など作品制作やコンクールはこれからという部活動もあります。

最後の試合やコンクールが終わったときはどんな気持ちでしたか？負けてしまってその時はとても悔しく泣けてしまった3年生もいましたが、時間がたつとこれまでのことを思い出して、やり遂げた充実感が胸に迫ってきたと思います。試合に勝つために、コンクールで賞をとるために、仲間や顧問の先生と一緒に励まし合い、時にはぶつかって練習に励んだことなどです。もしかしたら試合が終わった瞬間よりも、勝つために努力した時のことがより思い出に残り、幸せや充実感を感じているのではないかと思います。「幸せはゴールよりも走っている最中にあるのかもしれない」のです。

皆さんにはあらためて、様々なことに挑戦するときに1番大事なものの「自信」を身に付けてほしいです。自信とは自分を信じることで、何かに挑戦するときに無くてはならないものです。自分が信じられないことは不信、逆に自分を信じすぎると過信といいます。自信は不信と過信の間にあります。自分は何をやっても駄目だ、きっと失敗するに違いないという考えは「不信」、逆に確たる理由もないのに「自分はきっと成功するから大丈夫」という考え方は「過信」ですが、いわゆる根拠のない自信となってしまいます。

それではどうしたら本当に自信をもてるようになるのでしょうか。それは課題に対して時間と労力を費やし、「自分はこれだけ頑張ってきた」と思えることです。努力した時間の積み重ねだけが自信をつくります。ですからこれだけやったのだから大丈夫だと思えること、それが自信です。そしてもし試合に負けたりテストがうまくいかないことになっても、やるだけのことをやっていたら後悔しない、自分を責めたりしないのだと思います。

テストも終わり、部活動、学習に余裕をもって打ち込める日々となりました。それぞれゴールに向かって走っている「今」を大切に、ゴールした後になって、あの時もっと頑張っておけばよかったと後悔しないために、これから少し余裕のある夏休み、たっぷりの時間と努力をかける夏にしましょう。

■第53回多摩地区特別支援教育研究会バスケットボール大会

多摩地区の特別支援学級の生徒が参加するバスケットボール大会が、東京ドームスポーツセンター東久留米で行われました。今年度も多くの保護者の方が応援に来ていただき感謝しています。

とても緊張していましたが、毎日保健体育の授業で練習をしてきたことをしっかり発揮できました。

開会式後の準備運動では、全員の号令が体育館中に響き渡りました。試合では、「最後まで諦めちゃだめ!」「頑張れ!」とお互いに応援し合い、学級の絆も深まりました。B1とC2チームは優勝、C3チームは準優勝でした。



■生徒会からの提案「ピンクシャツ」の取組（道徳の授業）

生徒会からのいじめ防止の取組で「ピンクシャツ」について提案があり、これについて全校で道徳の授業で取り組みました。

生徒会長から、カナダで始まったピンクシャツデーについて説明があり、本校でもいじめ防止の取組としてやりたいと全校生徒へ呼びかけました。「いじめはよくない」「やめよう」と声をあげるだけでなく、このような行動で示す方法もあることを全校に知らせたいという生徒会の取組です。各学級で、いじめ防止のためにできることを、友達と話し合ったり、班でまとめたことを発表したりして考えを深めました。最後に自分ができること、いじめ防止のためにやっていくことをピンクシャツに書きました。

■小中連携 「SNS の使い方」のスローガン「おみそしる」

生徒会が谷戸小と中原小 5. 6 年生に啓発活動

昨年、生徒会が全校生徒に行ったアンケートの結果から小中学生が SNS のトラブルを減らし安全に使うためのスローガン「おみそしる」を考えました。

おもいやりをもって みる時間を守って 何かあったらそうだんして しらない人はきけんだから えるーるを守っていこうよ

生徒会役員が谷戸小を訪問し、5. 6 年生に SNS の使い方についての寸劇を行い、作成したスライドを見せながら「おみそしる」の説明をしました。美術部が作成したポスターを小学生に渡しました。中原小学校には生徒会が作成した啓発動画を見てもらうことになっています。

■道徳授業地区公開講座 7 月 12 日(土) 学校公開日

「社会での人とかかわりの中で、互いに認め合い支えあう関係づくりについて考える」（公正、公平、社会主義）をテーマに、1 年生は「いじめにあたるのはどれだろう」、2 年生は「『いじめ』についてあなたは思う？」3 年生は「私の好きなもの」、I・J 学級 1 年生は「傍観者でいいのか」、2 年生は「いじめにあたるのはどれだろう」、3 年生は「残されたボール」の教材で行いました。いじめについてそれぞれ立場の違う人の思いを想像したり、それをグループで共有することでいじめについて深く考えることができていました。そのあと玉川大学大学院教育学研究科教授 梅田比奈子氏による講演会「いじめをなくすために私たちにできること」を行いました。

「いじめは最も身近な人権侵害であり、かけがえのない中学校生活をいじめで不幸にしてはならない」と幸せな中学校生活のために私たちができることを熱心にお話してくださいました。保護者の方もたくさん参加されご意見もいただくことができました。梅田先生には、来年 1 月 15 日に予定している東京都人権尊重教育推進校の研究発表会の際にも講演していただく予定です。

■生徒の活躍（敬称略）

○陸上競技部 第 74 回東京都中学校地域別陸上競技大会（多摩東部）

第 5 位 走り高跳び ○○(3-B) 都大会出場

○野球部 11 ブロック夏季大会 準優勝（都大会・多摩大会出場）

○ソフトテニス部男子団体、女子団体 11 ブロック夏季大会 ベスト 8

○ソフトテニス部男子 ○○ 11 ブロック夏季大会 準優勝 都大会出場

○男子バレーボール部 11 ブロック夏季大会 第三位 都大会出場



生徒会長からの説明



いじめ防止のためにできることを
をピンクシャツに書きました。



生徒会が谷戸小 5. 6 年生へ「おみそしる」の説明をしました。



グループで立場の違う人のそれぞれの
思いを想像してみました。



梅田先生の講演会「いじめをなくす
ためにわたしたちにできること」

■学校現場で働いていただける人材を募集しています

(公財) 東京都教育支援機構 (TEPRO) の運営する TEPRO Supporter Bank (以下、「人材バンク」という。) では、支援を求める都内公立学校や教育委員会へ外部人材 (個人サポーター/企業・団体サポーター) を紹介しています。令和6年度末現在個人登録者は約9,200名となっていますが、実際に学校でボランティア等の活動に従事しているサポーターは約1,700名であり、まだまだ学校で活動ができる方を確保する必要があります。普段から学校の大変さを間近で見ている保護者の方だからこそ、サポーターとなり、学校の助けになることが期待されます。興味のある方は、まずはTEPROのHPのサポーター募集概要ページをご一読ください。

※QRコードを読み込むとTEPROのHPのサポーター募集概要ページに繋がります。

TEPRO Supporter Bank

ティープロ・サポーターバンク

詳細・ご登録



学校現場であなたの力、生かしませんか？



- エデュケーション・アシスタント
- 学習支援
- 特別支援教育の支援
- 部活動支援
- 教職員の事務支援
- 日本語指導の支援
- ICTの支援
- など

TEPRO サポーター登録

- 登録料・紹介料無料
- 丁寧にサポートします

お気軽にお問い合わせください。

TEPRO サポーターバンク
0120-389-055 (平日9時~17時)



公益財団法人
東京都教育支援機構
TEPRO
Tokyo Education Promotion and Support Organization

学割のご希望の方へ

できるだけ夏休みに入る前までに事務室または担任に指定の用紙をもらい、ご提出してください。